

市民ネットワーク まちづくり通信

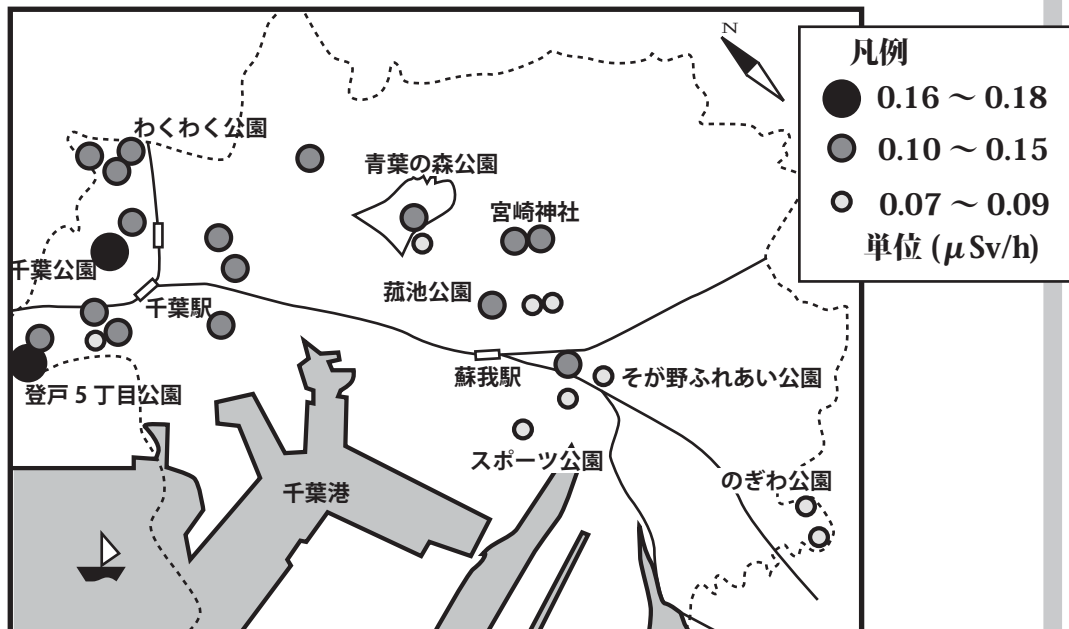
代表：小西由希子・発行責任者：木村ゆうこ

発行：市民ネットワーク 編集：市民ネットワークちば・中央
〒260-0013 千葉市中央区中央 3-13-17 TEL/FAX 043-223-7880
URL：http://shimin-network.jp/ E-mail chuo@chibanet.jp

みんなで測った放射線量

市民ネットワークでは、市民の方々の要望を受け中央区内の公園の空間放射線量率を 6~10 月にかけて測定しました。公園の中の真ん中あたり、砂場、ブランコ、遊具付近、草地など数箇所を 10 回計測して平均値をとり、そのなかで各公園の代表値として高さ 1m の最も高かった地点の測定値(雨どいの下など特定の地点を除く)を図に示しました。測定値は測定機器、測定日及び天候等により異なりますが、測定した範囲では、ホットスポットと思われる地点はありませんでした。

千葉市方面への放射能の飛散は前回の通信で示したように、3/15 と 3/21 にピークを示しました。放射能は 2 ルート (3/14~15 と 3/21~22) で関東に及び千葉市にも到達しており(朝日新聞 10/24)、中央区においてもその影響を受けたようです。測定値の詳細は『市民ネットワーク千葉県』のホームページをご覧ください。



測定器：ハンディサーベイメータ NHE20CY3-131BY-S (富士電機株式会社)

今後の課題と提案

多くの市民が目に見えない汚染に不安を抱えています。通学路や自宅の庭を測って欲しいなど市民ネットには、いまだ多くの相談が寄せられています。市として測定機器を貸し出すなどの対応が必要です。

さらに今後は食品の放射能汚染対策が課題になります。10 月半ばから学校や保育所の給食食材検査がはじまりましたが、不安を抱える。牛乳を飲ませて大丈夫か、と心配する保護者もあり、誰もが相談できる窓口の設置が求められます。

また、食品や落ち葉、堆肥など市民が持ち込んだものを検査する体制も必要です。市民ネットワークでは、検査に市民が協力する仕組みづくりを市に提案しています。

脱原発を実現するため、市に対しては PPS (特定規模電気事業者) *1 の活用促進を、国に対しては発送電分離等を求めています。

*1 新しく電力を小売したり買い取ったりできる企業。

放射能測定について

鈴掛 操

町内自治会長になって半年が過ぎたが、東日本大震災関連の「会員安否確認情報の整備」「高い丘やビルが無い地域での避難計画の策定」「避難時要援護者への対応方検討」「地域合同防災訓練の実施」など事案が沢山ある。その一環として、放射能測定がある。

目に見えない放射能に対する不安を解消するには、定量的に(数値データ)現状を把握し、定性的な情報(風評等)に惑わされないことが重要である。市民ネットに測定をお願いしたところ快諾を得て、猛暑の中(8月11日)団地内公園で測定をした。子どもが一番遊んでいる砂場 1m 高値でも 0.07 μSv/H (0.6mSv/年)であったことを、回覧すると共に団地清掃時に説明するなど、住民の不安解消に努めた。会員から多くの質問が出て、関心の深さを感じた。日本基準(20mSv/年)や ICRP 基準(1mSv/年)はクリアできた。

測定に当っては、①大人より子どもに視点を置いた測定②最小作業で最大効果を目指した、早期実効追求型の測定 等に留意した。

市民ネットの今回の測定活動は、政治活動を超えた住民の健康維持に視点を置いたものであり、活動の原点を見た。

国・県・市・各種団体の測定目的をキチッと棲み分けし、効率良い行動と密なる連携を期待する。

私が見る震災後の母と子ども達

(お産子育て向上委員会 助産師：小林昌代)

3月11日の震災はまだ記憶に生々しく残っています。千葉も被災地となり、多くの方が被害にあい、地震だけでなく放射線の汚染についてその後も心配しなくてはならない事態になりました。放射線の汚染は子育てや妊娠をしている場合、本当に心配なことで、自分たちの子どもをどう守るかに日本が揺れ、今も納得の行く解答は得られないままです。親たちは放射線の汚染値を気にして日本中をつなぐネットワークを作り、千葉でも放射線の汚染と食の安全についての署名をいろんな場所で求められます。そんな時に私が感じるのは確かに、私も子どもたちを守るべく努力していきたいと思いますが、データがない今、その子の生きる力に頼るしかないのではないかと考えています。取り込んだものを排泄する力をどう育てるか、ということではないかと感じます。震災直後はさすがに気にして外遊びを控えていた親子でも今は「何だか疲れちゃって。」と関心が少し薄れてきてしまっているような方もいます。

大事なことは、子どもの健康を本当に考えるなら、食、環境、体に気を配って本当に大切なものを取捨選択していける社会をつくる事だと思います。

振り返れば震災が起きる半年前に原発の話をしても見向きもしなかったであろう自分。今後、そんな事がないように、いろいろなことに関心を持ちアンテナを張って生きるチャンスだと捉えてこの難局を乗り切っていきたいです。